

2010年12月資料展示

「エデンの園」エンゲルブレヒト 立体のぞき絵

The Garden of Eden: Martin & Christian Engelbrecht

17・18世紀のヨーロッパでは、子どもの教育用にイソップ、ABC、宗教などの絵本や教科書が数多く出版されるようになりました。ホーンブック（取っ手の付いた板状の教科書）といった形態の子供用教科書も有名です。さらに18世紀末から19世紀の産業革命の時期になると、チャップブック（行商人が売り歩いた子供でも買える安価本）、ミニチュアブック、ポップアップ(pop-up)ブック、パノラマ絵本、ぬり絵本、覗き絵本、仕掛け本、ゲーム、パズルなど子供が楽しみながら知識が得られるように様々な形態の本が出版されるようになりました。

展示した作品は、1730年頃にドイツのアウクスブルクで最も著名な版画商、彫刻師であった、エンゲルブレヒト兄弟(Martin Engelbrecht : 1684-1756 & Christian Martin)が作製したミニチュア・シアターシリーズのひとつです。6枚の手彩色銅版画を展示箱に順番に配置することによって、奥行きのある「エデンの園」の風景が表現されています。

彼は当時の著名な図書の銅版画や君主のポートレートなども手がけましたが、5-8枚の風景シートを用いて宗教的なテーマや宮廷の風景を透視画的に表現しました。彼のぞき絵はその後19世紀半ばにロンドンで好評を博したDean & Son社によるPeepshow booksの先駆けとなったと言われています。こうしたジオラマ（情景模型）は18世紀に非常にポピュラーなものとなり後の映画術にも影響を与えました。

※上記の内容については、『世界のおもしろ絵本展:米国リリーライブラリーから』朝日新聞社1991、雄松堂書店、Booktryst古書店のホームページなどを参考にしました。

立教大学図書館

